



就学前教育とのゆるやかな接続のために

～幼小の連携を通して～

大館市立城西小学校 教諭 武石陽子
教諭 田村未知子

1 はじめに

城西小学校ではこれまでホテヤ幼稚園と連携を行ってきたが、学校行事の見学や子ども間での交流、入学前の情報交換が中心だった。このような連携や子どもの実態から、小1プロブレムや教師の意識のギャップという課題が見えてきた。そこで、これまでの連携を見直し、接続期の在り方を工夫した「新たな連携」が不可欠であると考えた。

2 ねらい

就学前教育からの子どもの発達や学びの連続性を踏まえ、小学校教育への円滑な接続の在方を構築する。

3 具体的な実践

(1) スタートカリキュラムの実際

実施期間は5月の連休明けまでとし、生活パターンや活動内容などは幼児教育との連続性に配慮した。また、「生活する力・かかわる力・学ぶ力」を意識して進めた。

① 時間割の工夫

安心感をもって過ごせるように毎日決まった流れにした。

② 朝の用意の視覚化

自分のことは自分でできるように実物写真と言葉で掲示した。

③ 朝の自発活動（自由遊び）の工夫

園での過ごし方をヒントに、自由に遊びを選択できる場を設定した。

④ 1時間目＝学年合同の時間

体を動かす活動を中心に、1コマを2つの教科で行った。学年合同にすることで少人数の園から来た子も安心でき、学年共通のルール作りもできた。

⑤ 2時間目＝生活科（学校探検）

学校探検を通して場や人とのかかわりをスモールステップで進めた。

⑥ 3・4時間目＝関連的な学習

主に生活科と他教科を関連させながらその日の活動とつながりのある学習を組み込んだ。

朝の用意



手順の視覚化



(2) 新たな連携

① 授業研究会

ア 研究授業

- ・算数「いくつといくつ」遊び感覚のゲームや手遊びを取り入れた生活科との合科的な学習。(平成23年度)
- ・国語「くちばし」写真から鳥のくちばしクイズを考えた学習。(平成24年度)
アプローチカリキュラムをヒントにグループ学習を取り入れた。

イ 事後研究会

- ・幼稚園教諭による授業の感想
- ・スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムの共通理解

② 幼稚園研修

〈ねらい〉園での生活を知ることによって、就学前との接続や1年生の生活の在り方を考える。

ア 園での朝の活動→小学校での朝の活動は余裕をもったほうがよいことを確認

イ 色水遊びの様子→幼稚園教諭の支援や自発的活動を重んじる姿勢を再確認

ウ 各自盛りつけをする給食の準備→年長児ができることを確認

エ ピアノの音や手遊び→園児には耳や目からの情報が効果的なことを実感

③ 年長児と1年生の交流会

一緒に遊ぶ交流+「お手伝い大作戦」(お手伝いのコツを実演する生活科の学習)を発表

ア 相手のことを考えた言動

- ・魚釣りゲームで「クリップが危ないよ」と取ってあげる優しい姿。
- ・年長児が聞きやすいようにゆっくり発表。

イ 年長児は1年生の学習を意識

「1年生になるとこんな勉強をするんだな」

ウ 1年生は自分の成長を実感



4 成果と課題

(1) 成果

- ① 園での実態を踏まえて接続期の手立てを工夫することで段差を乗り越え、小学校生活へのスムーズな適応が図られた。
- ② 育てたい力を意識して進めることで学びの基礎をつくることができた。
- ③ 連携の在り方を見直すことで幼小の教師が共通理解して育てていく体制ができてきた。

(2) 課題

- ① 発達の段階に応じた学びの保障が大切なので、今年度の実践を記録し、更新したい。
- ② 全校での共通理解が不可欠なので、細やかな連絡調整をしたい。
- ③ 連携は必然性をもって内容をさらに充実させていきたい。幼稚園教諭にも事前研究会に参加してもらうことで子どもへのかかわり方や授業へのヒントを学ぶことができるだろうと考える。